

# よくあるご質問と回答:

## Arcserve Backup 19.0

---

<b>1</b>	<b>ベース製品.....</b>	<b>1</b>
1.1	アクティベーションを行う必要はありますか?.....	1
1.2	Arcserve Backup の最新のバージョンではどんな機能がありますか?.....	1
1.3	バックアップ サーバのアップグレードで Agent の情報やジョブを引き継げますか?.....	1
1.4	Arcserve データベースで利用するデフォルト DB のバージョンはどれですか?.....	1
1.5	インストール時に導入される “Arcserve Backup Web サービスのインストール” とはなんですか?.....	1
1.6	“Arcserve Backup Web サービス” を後から追加できますか?.....	2
1.7	Linux ベースの NAS にバックアップできますか?.....	2
1.8	クラウドへ直接バックアップできますか?.....	2
1.9	長期間アクセスしていないファイルをバックアップの対象から除外できますか?.....	2
1.10	月末日に実行するスケジュールはどう組めばいいですか?.....	2
1.11	ローテーションのバックアップ ジョブはライブラリ装置がないと運用できませんか?.....	3
1.12	Arcserve Backup では GPT 形式のディスクをサポートしますか?.....	3
1.13	ファイル システム デバイス (FSD) を GPT 形式のディスクに作成しても良いですか?.....	3
1.14	Windows OS の重複除去ドライブではバックアップ サイズはどうなりますか?.....	3
1.15	FSD や重複排除用のデバイスを ReFS 上に作成しても良いですか?.....	3
1.16	Arcserve Backup ではバックアップ装置を何台まで制御できますか?.....	3
1.17	テープ装置の暗号化機能 (ハードウェア暗号化) を使うにはどうすればいいですか?.....	4
1.18	FSD でバックアップしたデータを定期的に NAS にコピーできますか?.....	4
1.19	ステー징ング デバイスで FSD を指定するとパーシステンスが表示されないのは何故ですか?.....	4
1.20	データ デデュプリケーション (重複排除機能) のベンチマーク資料はありますか?.....	4
1.21	重複排除のどの範囲で実施されますか?.....	5
1.22	重複排除できないバックアップ対象データはありますか?.....	5
1.23	重複排除機能を利用すると差分や増分のバックアップ設定は不要になりますか?.....	5
1.24	バックアップ処理の進捗状況は表示できないのですか?.....	5
1.25	アクティビティ ログが 2 週間で削除されますが 30 日保管に変更できますか?.....	5
1.26	Alert のメール機能は SMTP 認証に対応していますか?.....	6
1.27	Alert のメール機能は Office365 に対応していますか?.....	6



1.28	WSFC/MSCS クラスタ環境のバックアップをサポートしますか? .....	6
1.29	Arcserve Backup は WSFC/MSCS のクラスタ システムとして動作しますか? .....	6
<b>2</b>	<b>オプション製品.....</b>	<b>7</b>
2.1	Disaster Recovery Option: 惨事復旧を行う前に準備するものはなんですか? .....	7
2.2	Disaster Recovery Option: Bootable CD 方式は利用できますか?.....	7
2.3	Disaster Recovery Option: WSFC クラスタの復旧用の参考資料はありますか?.....	7
2.4	Disaster Recovery Option: SAN ブートや iSCSI ブートをサポートしますか?.....	7
2.5	Disaster Recovery Option: 物理環境から仮想環境への P2V 復旧に対応していますか? .....	7
2.6	Central Management Option: 制御できるバックアップ装置はいくつですか?.....	7
2.7	Enterprise Module: Image Option 機能はどのくらい速度が向上しますか?.....	8
2.8	Enterprise Module: Image Option 機能では GPT ディスクに対応しますか?.....	8
2.9	Enterprise Module: raw バックアップ機能を使うとバックアップ サイズはどうなりますか? .....	8
2.10	Tape Library Option: マルチ ドライブのライブラリを 2 台接続する場合のライセンス数は?.....	8
2.11	Tape Library Option: シングル ドライブのライブラリを 2 台接続する場合のライセンス数は? .....	8
2.12	SAN Option: FSD や 重複排除デバイスを利用する場合 SAN Option は必要ですか?.....	9
<b>3</b>	<b>Client Agent (Windows / Linux / UNIX).....</b>	<b>10</b>
3.1	Active Directory の詳細レベル リストアは有償のオプション製品ですか? .....	10
3.2	Active Directory の詳細レベル リストアは Windows Server 2022 でも利用できますか? .....	10
3.3	ファイルのリストアでアクセス権 (ACL) を復元できますか?.....	10
3.4	バックアップ サーバから Client Agent for Linux に接続できない場合どうすればいいですか? .....	10
3.5	複数の Client Agent for Windows で環境設定をまとめて実施できませんか? .....	10
3.6	AIX の LPAR をサポートしますか? .....	10
<b>4</b>	<b>Agent for Open Files .....</b>	<b>11</b>
4.1	合成フルバックアップはどのような機能でどんなメリットがありますか? .....	11
4.2	合成フルバックアップで継続増分バックアップはできますか?.....	11
4.3	合成フル バックアップでテープ装置やクラウドを利用できますか?.....	11
4.4	合成フルバックアップでは過去に削除したファイルもリストアされますか? .....	11
4.5	合成フルバックアップを運用中に手動で合成できますか? .....	11
<b>5</b>	<b>Agent for Virtual Machines .....</b>	<b>12</b>
5.1	[Guest Based Virtual Machines Agent Bundle] と [VM Agent per Host License] の違いは? .....	12



5.2	仮想ゲストのバックアップにはどんな方法がありますか? .....	12
5.3	ゲスト OS 上の SQL DB や Exchange Server などのバックアップはどうすればいいですか? .....	12
5.4	VMware vSphere でバックアップのトランスポート モードを指定できますか?.....	12
5.5	Linux ベースの vCenter Server Appliance をサポートしていますか? .....	12
5.6	vSphere 環境で複数の仮想マシンを同時にバックアップできますか? .....	13
5.7	vSphere 環境では仮想ゲストへのバックアップ モジュールの導入は必要ですか? .....	13
5.8	VMware Horizon View のリンク クローン環境をサポートしますか? .....	13
5.9	vSphere や Hyper-V のゲスト OS で WSFC クラスタ環境をサポートしますか?.....	13
5.10	vSphere vMotion や Hyper-V ライブ マイグレーション環境をサポートしますか?.....	13
5.11	Hyper-V レプリカをサポートしますか? .....	13
5.12	Nutanix の vSphere 環境をサポートしますか? .....	14
5.13	Nutanix の Hyper-V 環境をサポートしますか?.....	14
5.14	Nutanix の Acropolis (AHV) 環境をサポートしますか? .....	14
5.15	Oracle VM Server 環境をサポートしますか? .....	14
<b>6</b>	<b>アプリケーション Agent.....</b>	<b>15</b>
6.1	SQL Agent: Arcserve データベースのバックアップで SQL Agent のライセンスが必要ですか?.....	15
6.2	SQL Agent: Always On をサポートしていますか?.....	15
6.3	SQL Agent: データベース ミラーリング構成をバックアップできますか?.....	15
6.4	Exchange Agent: バックアップ 画面に表示されないのはどうしてですか? .....	15
6.5	Exchange Agent: DAG をサポートしていますか? .....	15



# 1 ベース製品

---

## 1.1 アクティベーションを行う必要はありますか？

いいえ、アクティベーションは不要です。ライセンスプログラム証書や製品パッケージ内に Arcserve Backup の製品キーを掲載していますので、そのキーでライセンス登録ができます。

製品キー（数字とアルファベットの組み合わせ）が掲載されていない場合には、ライセンスデスク（0120-630-178）までお問い合わせください。

[Top へ戻る](#)

## 1.2 Arcserve Backup の最新のバージョンではどんな機能がありますか？

Arcserve Backup は重複排除によるバックアップデータの削減や、クラウドへのデータ保管、仮想化対応強化など、バージョンを重ねるごとに様々な機能を追加しています。また最新の OS である Windows Server 2022 にも対応しています。

ご利用中のバージョンとの違いは、カタログセンターの「[バージョン別機能一覧](#)」を参照してください。

[Top へ戻る](#)

## 1.3 バックアップ サーバのアップグレードで Agent の情報やジョブを引き継げますか？

Arcserve Backup を上書きアップグレードすることで引き継ぐことができます。

下位互換環境でご利用になる場合には、[コチラ](#)をご参照ください。

[Top へ戻る](#)

## 1.4 Arcserve データベースで利用するデフォルト DB のバージョンはどれですか？

SQL Server 2019 Express Edition になります。

[Top へ戻る](#)

## 1.5 インストール時に導入される “Arcserve Backup Web サービスのインストール” とはなんですか？

Arcserve Backup Web サービスは、Arcserve シリーズ製品である Arcserve UDP (Unified Data Protection) と連携するためのサービスです。Arcserve UDP はイメージ バックアップ製品で、ハードディスクにバックアップを行いますが、Arcserve Backup との連携機能を使って、バックアップしたデータをテープ媒体に保管できます。Arcserve Backup Web サービスを利用することで、テープへの保管設定を Arcserve UDP のコンソール画面から設定できます。

※ Arcserve Backup Web サービスは、Arcserve UDP の「テープへのコピー」を使うための機能です。Arcserve Backup の画面からテープ媒体へ保管するジョブを登録する場合は、本サービスは不要です。

[Top へ戻る](#)



### 1.6 “Arcserve Backup Web サービス” を後から追加できますか？

はい、コマンドで追加できます。

Arcserve Backup のインストール フォルダで `bconfig -c` を実行してください。

※コマンド実行前に Arcserve Backup 関係の画面をすべて閉じてください。

[Top へ戻る](#)

### 1.7 Linux ベースの NAS にバックアップできますか？

はい、可能です。Arcserve Backup では NAS にファイル システム デバイス (FSD) を作成し、バックアップ先に指定できます。ご利用の NAS で以下 2 点をご確認ください。

- ① CIFS 共有が可能であること
- ② ご指定アカウントによるフル コントロールでのアクセスが可能であること

[Top へ戻る](#)

### 1.8 クラウドへ直接バックアップできますか？

はい、可能です。r17.5 より、ステージング デバイス無しで直接クラウド ストレージにバックアップしていただけます。対応するクラウド ストレージは[動作要件](#)をご確認ください。

[Top へ戻る](#)

### 1.9 長期間アクセスしていないファイルをバックアップの対象から除外できますか？

はい、フィルタ機能で設定できます。

フィルタ機能は、バックアップ マネージャ画面の上部にある [フィルタ] ボタンから設定します。

フィルタは抽出条件に合致したデータのみをバックアップする [組込み] と、条件にマッチしたデータの [除外] を指定できますが、今回の質問のケースでは、[組込み] を利用します。抽出条件となるフィルタパターンに [過去の指定期間内に更新されたファイル]、[過去の指定期間内に作成されたファイル]、[過去の指定期間内にアクセスされたファイル] をそれぞれ選択し、バックアップ対象に含めるべき期間を指定します。

また、Arcserve Backup では、長期間アクセスしていないファイルを業務サーバのディスクから、NAS やテープ装置などにアーカイブ (移動) できます。アーカイブで移動したファイルには、移動前のフォルダに移動先情報のファイルを残すことができ、後日ファイルが必要となった場合に移動先がすぐに判るように設計してあります。

[Top へ戻る](#)

### 1.10 月末日に実行するスケジュールはどう組めばいいですか？

カスタム スケジュールの繰り返し方法の設定で [日単位] を利用します。



バックアップの実行時間が夜中の 12 時を回る場合は、[日単位] で “1 日” を選択します。12 時を回らない場合 (たとえば 23 時に実施するなど) は、“31 日” を設定します。31 日に満たない月 (2 月/4 月/6 月など) では、月末最終日となる 28 日や 30 日にバックアップを実行します。

[Top へ戻る](#)

### 1.11 ローテーションのバックアップ ジョブはライブライ装置がないと運用できませんか？

テープ ライブライ装置が無い場合でも、ディスク バックアップのためのファイル システム デバイス (FSD) を複数作成することで可能です。デバイス マネージャにおいて複数の FSD を作成後、[デバイス グループ環境設定]画面でそれらを 1 つのデバイス グループに割り当てます。ローテーションのバックアップ先として、そのグループを選択してください。

※スケジュールの作成例は、「[バックアップ スケジュールの考え方と設定例](#)」を参照してください。古いバージョンの資料ですが、設定方法は同じです。

[Top へ戻る](#)

### 1.12 Arcserve Backup では GPT 形式のディスクをサポートしますか？

はい、サポートします。

Arcserve Backup では 64 TB までの GPT 形式のディスクをサポートします。

[Top へ戻る](#)

### 1.13 ファイル システム デバイス (FSD) を GPT 形式のディスクに作成しても良いですか？

はい、サポートします。

Arcserve Backup では 64 TB までの GPT 形式のディスクをサポートします。

[Top へ戻る](#)

### 1.14 Windows OS の重複除去ドライブではバックアップ サイズはどうなりますか？

Windows Server の重複除去ドライブをドライブ全体として選択されている場合、Arcserve Backup では最適化された状態 (重複除去でサイズが小さくなった状態) でバックアップします。

[Top へ戻る](#)

### 1.15 FSD や重複排除用のデバイスを ReFS 上に作成しても良いですか？

ReFS 上に作成した場合、FSD はサポートになりますが、重複排除用のデータ デデュプリケーション デバイス (DDD) は未サポートになります。

[Top へ戻る](#)

### 1.16 Arcserve Backup ではバックアップ装置を何台まで制御できますか？

1 台のバックアップ サーバにつき、255 個まで制御できます。



最大値の 255 は、Arcserve Backup で利用できるバックアップ装置 (テープ装置、ファイル システム デバイス、データ デデュープリケーション デバイス、クラウド デバイス) の合計数になります。

[Top へ戻る](#)

### 1.17 テープ装置の暗号化機能 (ハードウェア暗号化) を使うにはどうすればいいですか？

LTO などのテープ装置でハードウェア暗号化を利用するには、下記の設定を行います。

- ① バックアップ マネージャ画面上部にある [オプション] ボタンをクリック
- ② [暗号化/圧縮] タブを開き、[パスワード] および [パスワードの確認] を入力
- ③ [データの暗号化] にチェックを入れ、[バックアップ中にバックアップ サーバで処理] を選択
- ④ [OK] をクリックして、[グローバル オプション] 画面を閉じ、バックアップを実施

[Top へ戻る](#)

### 1.18 FSD でバックアップしたデータを定期的に NAS にコピーできますか？

はい、ステー징機能 (2 段階バックアップ) で可能です。

<設定方法の例>

- ① 一次バックアップ先と NAS 共有フォルダ用に各々 FSD を作成
- ② デバイス マネージャの [デバイス グループ プロパティの環境設定] から、一次領域用の FSD にステー징を設定
- ③ バックアップ マネージャの [スタート] タブにて、[標準バックアップ] と [ステー징有効化] を選択
- ④ [ステー징の場所] タブで一次領域用の FSD を、[デスティネーション タブ] で NAS に作成した FSD を指定
- ⑤ 必要に応じて [ポリシー] タブで、NAS 上の FSD へのコピー間隔と一次領域の FSD からコピー済みデータの削除する間隔を指定
- ⑥ ジョブをサブミット

[Top へ戻る](#)

### 1.19 ステーjing デバイスで FSD を指定するとパーシポリシーが表示されないのは何故ですか？

指定された FSD がディスク ステーjing デバイスとして設定されていないため、テープ扱いになっているためです。

デバイス マネージャ、もしくはバックアップの [ステーjing] タブから、[デバイス グループ プロパティの管理] で使用する FSD に対して [ステーjingを有効にする] 設定をしてください。

[Top へ戻る](#)

### 1.20 データ デデュープリケーション (重複排除機能) のベンチマーク資料はありますか？

はい、ベンチマークは「[データ デデュープリケーション効果測定](#)」資料をご参照ください。

[Top へ戻る](#)



### 1.21 重複排除のどの範囲で実施されますか?

バックアップ ジョブの中で実施しますが、バックアップ中に同じドライブのバックアップ ソース内にある重複や、過去に取得している世代データとの重複をチェックします。そのほか、C ドライブのバックアップ データに対し、ノード間の重複排除をバックアップ後 (数時間後) に実施します。

[Top へ戻る](#)

### 1.22 重複排除できないバックアップ対象データはありますか?

いいえ、Arcserve Backup はバックアップ データや内容にかかわらず、重複排除を実施します。

物理/仮想、ローカル/リモート、Windows / Linux / UNIX、raw データなど、すべてのバックアップ データを、チャンク (バックアップデータを小さくブロック分割した塊) に分解し、重複排除を実施できます。

※重複排除の排除率は、対象データによって異なります。

[Top へ戻る](#)

### 1.23 重複排除機能を利用すると差分や増分のバックアップ設定は不要になりますか?

ローカル バックアップの場合、差分/増分の組み合わせは不要ですが、リモート バックアップでは、バックアップ サーバに送信するデータ量が減るため、差分や増分の設定をお勧めします。(フル バックアップのみで実施すると、毎回バックアップ サーバにすべての対象データが流れます)

[Top へ戻る](#)

### 1.24 バックアップ処理の進捗状況は表示できないのですか?

はい、初期設定で非表示にしています。

進捗状況の表示には、ソース総量の推定 (バックアップ対象データの容量チェック) を事前に行うため、全体的なバックアップ処理時間が少々長くなります。バックアップは夜間に行われることが多く、進捗状況を表示する必要性が低いことと、処理時間短縮の理由から、ソース総量の推定を非表示にしています。

ただ初期設定の状態でも、2 回目以降のバックアップでは進捗状況の表示が行われます。進捗表示のベースとなる容量は、1 回前のバックアップ容量になります。バックアップ対象データに大幅な増減がある場合には、画面に見えている進捗率と実際の進捗率にはかなりの差が出てきます。

正しい進捗率を表示するには、バックアップ画面のグローバル オプションで、[操作] タブにある [ファイナル サイズを推定しない] のチェックを外します。この変更により、バックアップ時に毎回ソース総量の推定を行うため、ファイルの数が多い環境では、少々バックアップ時間が長くなります。

[Top へ戻る](#)

### 1.25 アクティビティ ログが 2 週間で削除されますが 30 日保管に変更できますか?

はい、変更できます。





サーバ管理の環境設定で、[データベース エンジン] タブにある [古いアクティビティ ログ廃棄間隔] を 14 日から 30 日に設定を変更してください。変更に伴うサービス再起動は必要ありません。

[Top へ戻る](#)

### 1.26 Alert のメール機能は SMTP 認証に対応していますか?

はい、r16 SP1 から対応しています。設定方法は以下の技術情報を参照してください。

[Arcserve Backup のイベントを、Alert 機能を使用し SMTP 認証環境で通知する方法](#)

[Top へ戻る](#)

### 1.27 Alert のメール機能は Office365 に対応していますか?

はい、r17.5 から対応しています。

Office365 などの TLS/SSL に対応した SMTP サーバからも Alert メールを送信できます。

[Top へ戻る](#)

### 1.28 WSFC/MSCS クラスタ環境のバックアップをサポートしますか?

はい、サポートします。

Arcserve Backup では、アクティブ/パッシブやアクティブ/アクティブのクラスタ環境をバックアップできます。クラスタの構成ノード数に制約はありません。Windows OS がサポートしている範囲内のノード数をサポートします。

[Top へ戻る](#)

### 1.29 Arcserve Backup は WSFC/MSCS のクラスタ システムとして動作しますか?

はい、バックアップ サーバにて、アクティブ/パッシブのクラスタ システムとして動作します。

バックアップやリストア中にバックアップ サーバでフェールオーバーが発生した場合、サービス起動後に中断した処理を継続します。

※Arcserve Backup のアクティブとなるノードは 1 台です。他のノードはすべてパッシブになります。  
(アクティブ/アクティブのクラスタ システムとしては動作しません)

[Top へ戻る](#)



## 2 オプション製品

---

### 2.1 Disaster Recovery Option: 惨事復旧を行う前に準備するものはなんですか？

惨事復旧を実施するには、下記 3 つのアイテムが必要になります。

- ① 惨事復旧用のブート メディア  
Arcserve Backup の画面から作成します。
- ② バックアップ データ (フル バックアップ)
- ③ フル バックアップ完了時に自動作成される復旧情報  
ネットワーク共有フォルダにも保管でき、復旧処理中に共有フォルダにアクセスできます。

差分や増分バックアップのデータも一緒に復旧する場合は、差分や増分取得後に更新される復旧情報と、該当のバックアップ メディアも必要になります。そのほか、復旧するマシンによっては、HDD (RAID)、テープ装置、NIC などのドライバが必要になりますが、各ドライバはブート メディア作成時に一緒に組み込みます。

[Top へ戻る](#)

### 2.2 Disaster Recovery Option: Bootable CD 方式は利用できますか？

いいえ、Arcserve Backup 18.0 以降は WinPE 方式の惨事復旧のみのサポートになります。WinPE 方式は、すべての OS バージョンの復旧と、WSFC クラスタ環境の復旧に対応しています。

[Top へ戻る](#)

### 2.3 Disaster Recovery Option: WSFC クラスタの復旧用の参考資料はありますか？

はい、「[リモート ノードの WSFC 環境へ Client Agent の導入と復旧](#)」をご覧ください。

[Top へ戻る](#)

### 2.4 Disaster Recovery Option: SAN ブートや iSCSI ブートをサポートしますか？

はい、サポートします。SAN ブート環境や iSCSI ブート環境でマルチパスを構成している場合には、惨事復旧前に余分なケーブルを抜いて、シングルパスの状態にしてください。

[Top へ戻る](#)

### 2.5 Disaster Recovery Option: 物理環境から仮想環境への P2V 復旧に対応していますか？

はい、物理から仮想への DR 復旧 (P2V) および 仮想から仮想への DR 復旧 (V2V) に対応しています。

[Top へ戻る](#)

### 2.6 Central Management Option: 制御できるバックアップ装置はいくつですか？



Central Management Option を導入した環境でも、各バックアップ サーバ (プライマリおよびメンバサーバ) ごとに最大 255 個のデバイスを制御できます。

[Top へ戻る](#)

## 2.7 Enterprise Module: Image Option 機能はどのくらい速度が向上しますか?

Image Option 機能はファイルの数が多くなると、より効果を発揮します。実際のバックアップ速度は、ファイルの数やデータの種類、バックアップ装置など様々な環境に依存しますが、弊社内のテスト環境では、およそ 8 倍のスピード アップを実現しています。

詳しくは「[バックアップスピード比較:Image Option と標準バックアップ](#)」をご覧ください。

[Top へ戻る](#)

## 2.8 Enterprise Module: Image Option 機能では GPT ディスクに対応しますか?

はい、サポート対象になります。

[Top へ戻る](#)

## 2.9 Enterprise Module: raw バックアップ機能を使うとバックアップ サイズはどうなりますか?

ファイル システムを経由しない raw バックアップでは、未使用領域の判別ができないため、該当ボリュームのすべてのサイズでバックアップします。

たとえば、2TB のボリュームで使用容量が 5GB の場合、通常はバックアップ サイズは 5GB になりますが、raw バックアップの場合は、2TB のサイズになります。

raw バックアップでも重複排除機能を利用できます。重複排除は未使用領域も重複ブロックの対象とするため、バックアップ サイズは使用済み領域と同程度になります。(未使用ブロックの情報が異なる場合には、使用済み領域よりもサイズが大きくなる場合があります)

[Top へ戻る](#)

## 2.10 Tape Library Option: マルチ ドライブのライブラリを 2 台接続する場合のライセンス数は?

接続先が 1 台のバックアップ サーバの場合は、マルチ ドライブのライブラリを何台接続しても、Tape Library Option は 1 ライセンスになります。それぞれ異なるバックアップ サーバに接続する場合には、接続先のバックアップ サーバの数だけ Tape Library Option をご用意ください。

[Top へ戻る](#)

## 2.11 Tape Library Option: シングル ドライブのライブラリを 2 台接続する場合のライセンス数は?

このケースでは、Tape Library Option は不要です。



Tape Library Option は、マルチ ドライブ搭載のライブラリ装置を利用する場合のみ必要になります。

なお、物理テープではなく、VTL をご利用になる場合には、ドライブの設定数にご注意ください。VTL ではドライブ数を設定できますが、マルチ ドライブの設定にしている場合、Tape Library Option がないと、バックアップ処理が動かなくなります。この場合はドライブ設定を 1 つに変更するか、Tape Library Option をご用意ください。

[Top へ戻る](#)

## 2.12 SAN Option: FSD や 重複排除デバイスを利用する場合 SAN Option は必要ですか？

いいえ、不要です。

SAN Option は、FC-SAN や IP-SAN 上に接続された “テープ装置” を複数の SAN 接続サーバ間で共有し、LAN にデータを流さずにバックアップできる機能です。

SAN 共有ディスクに FSD や重複排除用のデバイス (DDD) を作成する場合は、ベース製品のライセンスで利用できますが、共有はできません。また SAN に接続している他のサーバをバックアップしても、バックアップ データは SAN ではなく、LAN を流れます。

[Top へ戻る](#)



## 3 Client Agent (Windows / Linux / UNIX)

---

### 3.1 Active Directory の詳細レベル リストアは有償のオプション製品ですか？

いいえ、この機能を利用するためにオプション製品は必要ありません。Active Directory の詳細レベル リストアを利用するには、AD のサーバに Client Agent を導入してください。

[Top へ戻る](#)

### 3.2 Active Directory の詳細レベル リストアは Windows Server 2022 でも利用できますか？

はい、対応しています。この機能は Windows Server 2008 以降の OS で利用できます。(Arcserve Backup 19.0 では Windows Server 2012 以降の OS をサポートしています)

[Top へ戻る](#)

### 3.3 ファイルのリストアでアクセス権 (ACL) を復元できますか？

はい、復元できます。デフォルトの設定で、ファイルの属性やセキュリティ情報がリストアされます。

[Top へ戻る](#)

### 3.4 バックアップ サーバから Client Agent for Linux に接続できない場合どうすればいいですか？

Linux OS ファイアウォール設定により、ポートが空いていないと通信ができません。ポート 6051 (TCP/UDP) を開けてください。

[Top へ戻る](#)

### 3.5 複数の Client Agent for Windows で環境設定をまとめて実施できませんか？

はい、一度に設定できます。

Arcserve Backup マネージャのセントラル エージェント管理機能 (標準機能) により、同じ設定を複数のマシンのエージェントに適用できます。

[Top へ戻る](#)

### 3.6 AIX の LPAR をサポートしますか？

はい、サポートしています。各 LPAR に Client Agent for UNIX を導入してください。(ライセンスも各 LPAR で必要になります)

[Top へ戻る](#)



## 4 Agent for Open Files

---

### 4.1 合成フル バックアップはどのような機能でどんなメリットがありますか？

合成フル バックアップでは、フル バックアップとそれ以後の増分バックアップを合成する事で新しいフル バックアップ イメージを作る機能です。ソース マシンに長時間負荷がかかるフル バックアップの回数を減らし、日々のバックアップは増分での運用が可能です。

自動実行可能な合成ジョブによりフル バックアップと増分バックアップは合成されるので、リストアはまとめて 1 度に行うことができます。バックアップの負担だけでなく、リストアの負担も軽減します。

[Top へ戻る](#)

### 4.2 合成フル バックアップで継続増分バックアップはできますか？

はい、できます。

合成フル バックアップは、フル バックアップの間隔を指定しますが、初回のみフル バックアップの指定も可能です。この設定により、初回のみフル バックアップ、それ以降は増分+合成ジョブだけで運用できます。

[Top へ戻る](#)

### 4.3 合成フル バックアップでテープ装置やクラウドを利用できますか？

はい、ステージングと併用することで利用できます。ディスク ベース デバイス(ファイル システム デバイス や データ デデュプリケーション デバイス) 上で合成処理を行ったあと、最終書き込み先としてテープ装置や別のディスク ベース デバイス、クラウド デバイスを選択できます。

[Top へ戻る](#)

### 4.4 合成フル バックアップでは過去に削除したファイルもリストアされますか？

いいえ、バックアップ時に Point in Time リストア機能を有効にすることで、過去に削除されたファイルをリストア対象データから除外できます。

Point in Time リストアを有効にするには、グローバル オプションの拡張タブを開き、一番下にある項目、[Point-in-Time リストア (PIT リストア) を有効にする] をチェックしてください。

[Top へ戻る](#)

### 4.5 合成フル バックアップを運用中に手動で合成できますか？

はい、できます。

手動で合成処理を行うには、バックアップ処理の作成時に、グローバル オプションの [拡張] タブにある [Point-in-Time リストア オプション] を有効にしてください。この設定が無効になっていると、手動で合成を行った際に、“合成の必要のあるセッションが存在しません” というメッセージが出ます。

[Top へ戻る](#)



## 5 Agent for Virtual Machines

---

### 5.1 [Guest Based Virtual Machines Agent Bundle] と [VM Agent per Host License] の違いは?

利用できる機能に差異はありません。この2つの製品の違いはライセンスのカウント方法です。

[Guest Based Virtual Machines Agent Bundle] は、バックアップ対象となる仮想ゲストの台数に加えて、仮想ホスト (vSphere の場合はバックアップ プロキシ) の分もライセンスが必要となります。

[VM Agent per Host License] は、仮想ホスト 1 台につき 1 ライセンスとなり、保護可能な仮想ゲストの数に制限はありません。vSphere の場合には、別ノードに導入するバックアップ プロキシのライセンスも同梱します。

[Top へ戻る](#)

### 5.2 仮想ゲストのバックアップにはどんな方法がありますか?

物理マシンのバックアップと同様に、各ゲストにエージェントを導入する方法と、仮想ホストと連携してバックアップを行うエージェントレスの方法があります。エージェントレス方式は、vSphere 環境では VADP (vStorage API: VDDK を利用)、Hyper-V 環境では VSS を使用してゲストのスナップ ショットを取得し、バックアップを実行します。

[Top へ戻る](#)

### 5.3 ゲスト OS 上の SQL DB や Exchange Server などのバックアップはどうすればいいですか?

VSS Writer 対応のアプリケーション (Microsoft SQL Server や Exchange Server など) の場合、Agent for Virtual Machines Bundle に同梱の Agent for Open Files for VM の機能を使い、VSS を経由してバックアップできます。

差分/増分や特定のデータのみ保護する場合、また整合性チェックなどアプリケーション側の機能と連動させる場合は、アプリケーション専用のエージェント製品にて保護できます。

[Top へ戻る](#)

### 5.4 VMware vSphere でバックアップのトランスポート モードを指定できますか?

はい、できます。

トランスポート モードは、[動的]、[SAN]、[HOTADD]、[NBDSSL]、[NBD] から選択できます。

HOTADD モードでは仮想ゲストをバックアップ プロキシとして利用できます。

[Top へ戻る](#)

### 5.5 Linux ベースの vCenter Server Appliance をサポートしていますか?



はい、サポートしています。

vCSA (VMware vCenter Server Appliance) による Linux ベースの vCenter をご利用いただけます。

[Top へ戻る](#)

## 5.6 vSphere 環境で複数の仮想マシンを同時にバックアップできますか?

はい、エージェントレス方式でも、ゲスト OS にエージェントを導入する方式でも、できます。

バックアップ先となるデバイス (テープ装置、ファイル システム デバイス、データ デデュープリケーション デバイス) を複数ご用意ください。

[Top へ戻る](#)

## 5.7 vSphere 環境では仮想ゲストへのバックアップ モジュールの導入は必要ですか?

エージェントレス方式でバックアップする場合、モジュール導入は不要です。

バックアップ モジュールの導入は不要ですが、バックアップ対象のゲスト OS には Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。ライセンス数については、[ライセンス ガイド](#) をご覧ください。

[Top へ戻る](#)

## 5.8 VMware Horizon View のリンク クローン環境をサポートしますか?

いいえ、Arcserve Backup はフルクローン環境のみサポートします。

[Top へ戻る](#)

## 5.9 vSphere や Hyper-V のゲスト OS で WSFC クラスタ環境をサポートしますか?

はい、サポートします。

サポート対象となる OS は、日本マイクロソフト株式会社が仮想システムでサポートしている OS であり、かつ Arcserve Backup が Client Agent でサポートしている OS になります。バックアップ方法は物理サーバ環境と同じく、Agent for Virtual Machines に含まれる Client Agent 経由でのバックアップとなります。

[Top へ戻る](#)

## 5.10 vSphere vMotion や Hyper-V ライブ マイグレーション環境をサポートしますか?

はい、どちらの環境もサポートします。

VMware vSphere では、vSphere vMotion、vSphere DRS、vSphere HA、vSphere FT 環境をサポートしています。Hyper-V 環境では、ライブ マイグレーション および クイック マイグレーション環境をサポートしています。

[Top へ戻る](#)

## 5.11 Hyper-V レプリカをサポートしますか?

はい、サポートします。





ゲストはプライマリ仮想マシン（複製元）からバックアップを実行してください。ホストはスタンドアロン構成のみバックアップをサポートします。

[Top へ戻る](#)

### 5.12 Nutanix の vSphere 環境をサポートしますか？

はい、サポートします。

Agent for Virtual Machines からみると、Nutanix のハイパーコンバージド インフラは透過的な環境であるため、エージェントレス方式も、また各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式もサポートします。

[Top へ戻る](#)

### 5.13 Nutanix の Hyper-V 環境をサポートしますか？

はい、サポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式を利用してください。

[Top へ戻る](#)

### 5.14 Nutanix の Acropolis (AHV) 環境をサポートしますか？

はい、サポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式を利用してください。

[Top へ戻る](#)

### 5.15 Oracle VM Server 環境をサポートしますか？

はい、Arcserve Backup 18.0 以降のバージョンで Oracle VM Server x86 環境をサポートします。

各ゲストにバックアップ モジュールを導入する、物理環境と同じバックアップ方式を利用してください。

[Top へ戻る](#)



## 6 アプリケーション Agent

---

### 6.1 SQL Agent: Arcserve データベースのバックアップで SQL Agent のライセンスが必要ですか?

いいえ、不要です。

Arcserve Backup で各種情報を格納している Arcserve データベースは、デフォルト DB の SQL Server Express Edition でも、有償版の SQL Server を利用している場合でも、Arcserve Backup の標準機能でバックアップできます。リモート マシン上の有償版 SQL Server で Arcserve データベースを構築した場合でも同じです。

[Top へ戻る](#)

### 6.2 SQL Agent: Always On をサポートしていますか?

はい、すべての SQL Server のバージョンで対応しています。

[Top へ戻る](#)

### 6.3 SQL Agent: データベース ミラーリング構成をバックアップできますか?

はい、できます。

Arcserve Backup はデータベース ミラーリング構成の、プリンシパル側のデータベースをバックアップします。

[Top へ戻る](#)

### 6.4 Exchange Agent: バックアップ 画面に表示されないのはどうしてですか?

Exchange Server 2010 以降のバージョンでは、バックアップのソース タブの一番下にある [Exchange の組織] に Active Directory の情報を登録すると表示されます。(Arcserve Backup 19.0 では、Exchange Server 2013 以降をサポートします)

[Top へ戻る](#)

### 6.5 Exchange Agent: DAG をサポートしていますか?

はい、サポートします。

DAG の構成ノード数は Exchange Server がサポートしている最大構成ノード数までサポートします。

[Top へ戻る](#)

